

中央区 白山校区コミュニティ協議会

活動名：白山校区コミュニティ協議会 防災視察研修会

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

◎世帯相互の連帯や共助の意識が希薄であること。◎防災に関する意識が希薄であること。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

◎防災意識・防災知識の共有を図るとともに減災について考えるきっかけにしたい。
◎地域の連携感や自助・共助意識の向上を図る。
◎避難所運営の問題点を理解する。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

◎中越地震被災地 長岡市山古志（防災記念館おらたる）で見学・学習災害規模、共助の様子、全村避難、避難の様子、避難所運営、復興計画、現在の様子などを、語り部「田中仁」氏から講演していただいた。

また、木箒地区の水没家屋の見学を行い、災害の大きさを実感した。さらに帰路に三条水防学習館の見学も行い、三条市の水害と水防について学んだ。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

◎消防団中央方面隊白山分団 ◎社会福祉協議会

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ◎避難所での生活及び運営。
- ◎共助のあり方。
- ◎リーダーの仕事。
- ◎復興の様子などから、防災意識・自助・共助のあり方等を勉強した。
- ◎三条水防学習館では、川の氾濫による被害の大きさを確認。
- ◎普段からの備えの大切さを学んだ。

当コミ協が抱える自治会数や世帯数は大変多く（33 自治会・ほぼ 3000 世帯）隣人の顔を知らない人も少なくない。非常時には混乱が予想される。目標は目標としたが、本音は普段付き合いの少ない地域の人の中で、少なくとも非常時に活動可能な人たち同士が顔と名前を憶えてほしいのが狙いであり、その面では、参加者がほぼ全員参加した反省会を含めて効果があったといえる。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ◎コミ協重点事業としていただき、新潟市の地域活動事業補助金の対象としたこと。
- ◎移動するバスの中で新潟地震の DVD を視聴してもらったこと。
- ◎消防団員・民生委員の参加があったこと。
- ◎懇親会を兼ねて反省会を開催したこと。
- ◎山古志地区の被災地をバスでボランティアガイドの説明つきで回ったこと。

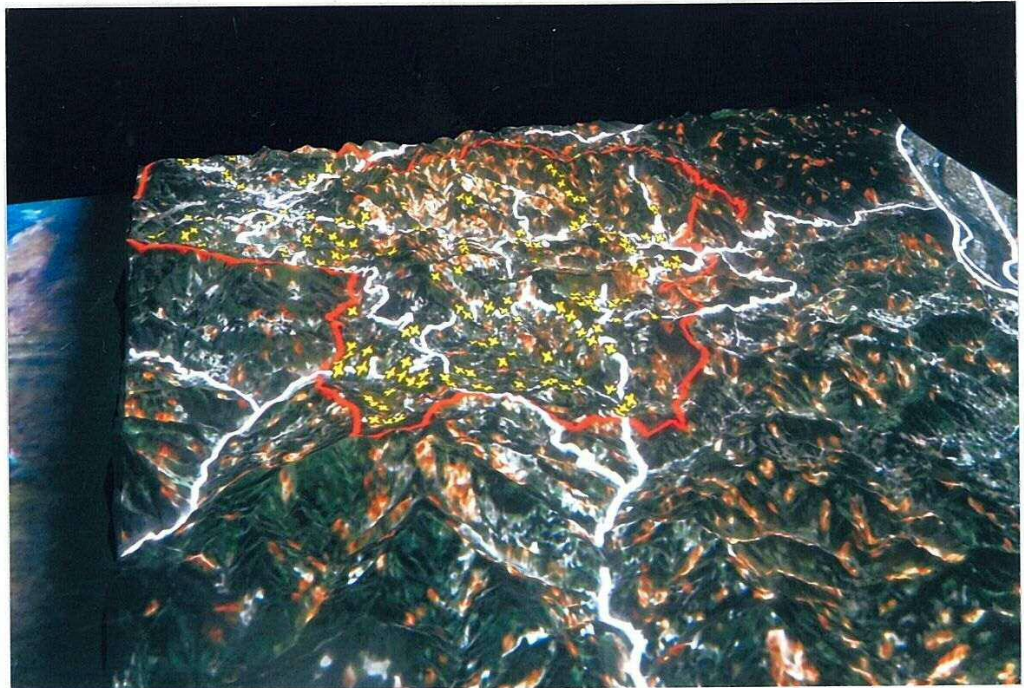
Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

当コミ協では、各部会それぞれの目標をもって様々な活動を行っており、徐々に参加者も増えているようであるが、今回の事業の参加者 43 名の平均年齢が 70 歳以上と推定される。他部会の事業も推して知るべしで、高齢者が活動の中心となっている地区である。若いマンション住民にどのように参加してもらおうことができるのか、方法を模索しているが、大変難しい。よい事例があればご教示賜りたい。また、東日本大震災の被害地視察を考えているが、経費・時間等の難問があり、このことについてもご教示いただけるとありがたい。

① 熱心に学ぶ参加者



② 山古志地区（旧山古志村）の地震被害
茶色いところが地崩れ，崖崩れの場所



③ 木箆地区で泥流に飲み込まれた家



④ 三条水防学習館で職員の説明を受ける参加者



中央区 浜浦小学校区コミュニティ協議会

活動名：「子供の松林」整備

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

浜浦小学校の自然学習林「ネムの森」の道路を挟んだ松林(約二千㎡)のジャングル化が進んでおり、地域全体としての景観を損ねていた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

1. 「ネムの森」と一緒に、子供達が安心して利用できる松林の再生・整備
2. 「子供の松林」の認知と活用

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

1. 繁茂したニセアカシアと木化した雑草の伐採（中央区建設課に依頼）平成24年
2. ニセアカシアの根の除去（NPO“阿賀の会”に依頼）平成25年
3. 毎年2～3回の草刈り作業（平成25年～）
4. イベント開催（木工教室）、他団体による整備協力（平成27、28年）

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

1. 新潟地域緑化推進協会
2. ガールスカウト新潟市連絡協議会

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

1. 「ネムの森」と一体となって、道路からの見通しもよく、防風林としての役割を維持しながら、子供たちが走りまわり、くつろげる森に甦った。
2. 周辺の遊歩道を散策、ジョギングしている人達にも、この松林を知ってもらうようになった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

1. 整備に対するコミ協や地域での認知醸成
2. 他団体との協働
3. 地域内外に「子供の松林」の認知

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

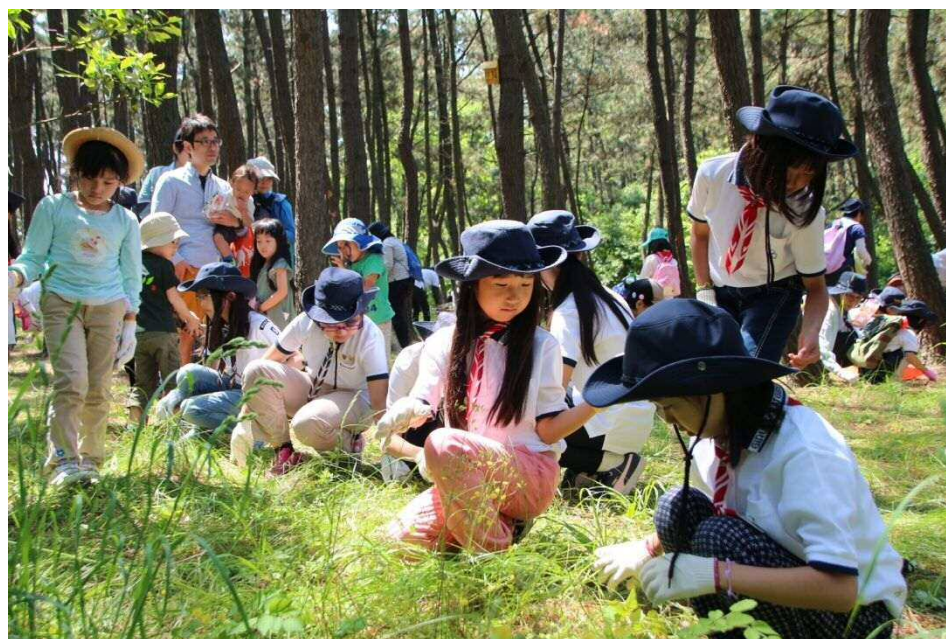
たくさんの子供達、地域の方々に「子供の松林」を利用していただき、時には松林の整備にも、お手伝いしていただけるように活動していきたい。

写真

木工教室



ガールスカウトによる除草作業



中央区 有明台小学校区コミュニティ協議会

活動名：防災先進地研修会（長岡市、小千谷市）

実施日 平成28年3月25日

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

昭和39年の新潟地震、10年前の中越地震などの体験者が少なくなった。平成28年度6月の訓練は、日本海沖地震で3mの巨大津波が襲ってくることを想定し、校区内に津波避難場所へ避難する訓練を行った。次年度は、さらにバージョンアップし「避難所生活体験訓練」を行うことを目的として計画を練っている。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

新潟市には、新潟地震のメモリアルホールがない。長岡、小千谷、川口などは、その爪痕をリアルに保存し、後世に活かしている。そこへ、3月公募し20名で出かけた。長岡市は長岡震災アーカイブセンター【きおくみらい】、小千谷市は、おぢや震災ミュージアム【そなえ館】。どこも係員の丁寧な説明があり、有意義な研修ができたと思う。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

当初、コミ協の「安全交通部会」と自治町内会長で研修旅行を計画したが、高齢と活動の機敏性、持続性に疑問が湧き、公募することで新人の発掘を行った。女性も6名参加し、女性の視点から「避難所生活」を組み立てることも大事と思った。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

特別にありません。ただ、研修先の皆様には大変お世話になりました。

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

訪問先が中山間地の地震体験で津波被災地ではないので、水の震災としては、三条市の水害の爪痕が参考になった。電気、ガス、水道、トイレのない生活の体験「語り部」は、画像とリンクしてリアルに作成、水の被害のもの凄さの臨場感があってよかった。また、どんなものが役立つかのヒントも明らかにされ、有明台小学校の避難所生活の計画の参考になった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

この研修会に参加した人を中心に、有明台小学校の避難所運営計画を作成したい。トイレの置き場所、洗濯場、食事づくり場、水の調達、医務室、女性専用の大部屋、体育館仕切り、高齢者の横臥室、入浴室、などなど、しっかりと図面をつくる予定。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

有明台には、関南町が海拔ゼロメートル地帯。270世帯が暮らしている。津波によって一人の死亡者も出さないことを目標に、自主防災会活動をしっかり実施する。特に、災害時要援護者への付添人を決める。一人暮らしのお年寄りの日常的なつながり。震災を甘く見ている方へ啓蒙。「釜石の奇跡」「大川小学校の悲劇」を訓練に研鑽する。



中央区 上山校区コミュニティ協議会 (上山地区社会福祉協議会)

活動名：福祉研修見学会

(住まい、介護、医療、集いの広場「なじよも」の施設見学)

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域における「地域包括ケアシステム構築」の一環として

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

「地域包括ケアシステムの構築」に向けて、幅広い実践が必要。
今回は施設見学の実践で学ぶこととした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

「なじよも」の研修見学会を実施した。(住まい、介護、医療等)

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

住み慣れた自宅や地域で、みんなが顔と顔の見える関係づくりの共有が一層深まり、喜びの笑顔、笑顔が見えました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

なし

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

今回の体験(見学会)は、安心と信頼の継続をみんなで作る地域づくり、また地域包括ケアシステムの構築に向けての学びともなった。《ひとりぼっちにならない、ひとりぼっちをつくらない、ひとりぼっちにさせない》なども学び今後の教訓にしたい。

何よりも強く実感したことは、協働の輪で現場を見聞する積極姿勢が今までになく強かった。今後に向けての活動に大いに生かしてゆけばと思っている。

中央区 女池校区コミュニティ協議会

活動名： 地域包括ケアシステム学習会

活動内容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

平成 29 年度より、地域包括ケアシステムが開始されるが、地域の認識度が低く、始まった時に地域住民の混乱が予想されるため。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

平成 27 年度は各自治会等に対し、地域包括ケアシステムの概要を理解してもらい、平成 28 年度は具体的な事項についての学習会を開催する。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

地域包括ケアシステムの概要を新潟市の地域包括ケア推進課より説明して頂いた。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

校区内にある老人会、介護事業所、民児協。

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

地域での認識が高まった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

各参加団体の認識度が低かったため、自治会等の参加数が予想より少なくなってしまったこと。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

引き続き学習会を平成 28 年度に 2 回開催する予定である。

地域包括ケアシステム学習会の写真



